

2026年5月28日

お客さま各位

水戸証券株式会社
投資顧問部

リバランス実施の背景

1. TAA 実施に関して

- ・ 5月26日（火）の臨時投資政策会議において、投資判断の一部を変更させていただきました。これまでの資産配分比率に占めるコモディティの割合を引き上げることといたします。
- ・ TAAは、相場環境見通しに基づき資産配分を変更するものです。
- ・ 以下、その背景につきご案内申し上げます。

2. TAA 実施の背景

<コモディティ> 「やや弱気」→「中立」

- ・ コモディティ相場は、4月以降、中東情勢に振らされながらも、ホルムズ海峡の封鎖が続いていること等を背景に、堅調推移となりました。一方、足元では米国とイランの交渉が進展していると伝わり、戦争終結への期待が高まったこと等から、原油価格を中心に下落する展開となりました。
- ・ 当面は米国とイランの交渉を巡る思惑等に振らされる展開を予想します。ただし、核問題をめぐる両国の隔たりは依然として大きく、情勢次第ではコモディティ相場が再び上昇する可能性もあると思われれます。
- ・ 構成比最大の原油については、OPECプラス（石油輸出国機構と非加盟産油国）が4月から6月の生産量を小幅に引き上げることを決定しましたが、ホルムズ海峡をめぐる混乱は続いており、増産分が実際に市場へ供給されるかは不透明な状況です。
- ・ 加えて、ウクライナがロシアの石油関連施設への攻撃を強めており、ロシアの供給懸念等も、原油価格の下支え要因になると考えます。
- ・ その他の品目である、貴金属（金や銀）については、新興国を中心とする中央銀行による金の買い入れが継続していること等から、底堅い推移を予想します。産業用メタル（銅やアルミ）については、銅やアルミの供給不安が続いていることや、米トランプ政権による関税政策の不透明感等が下支えになると考えます。

このような最近の投資環境を踏まえ、コモディティの投資判断を変更することといたしました。

以 上